

(別紙4(2))

事業所名 グループホーム悠々

## 目標達成計画

作成日: 平成 31 年 3 月 1 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	家族、地域の人々の参加が少なく、毎回同じメンバーとなっているため外部からの意見が届きにくい。	・家族の参加を増やしていく。 ・地域近隣の他事業所等の参加。	・家族へ運営推進会議を周知してもらう為、再度声掛けを行っていく。 ・他の事業所との交流、情報交換を兼ねて訪問し参加の呼びかけをお願いする。	3ヶ月
2	10	定期的な家族との交流会の機会が少なく、家族と職員の思いが伝わりにくい状況になっている。	・全館で行われる行事の参加の声掛けと共に、定期的な家族会の開催を行っていく。	・行事予定表のお知らせも含め家族への便りの継続、参加の声掛け。 ・交流スペースを活かし家族会を開催する。	12ヶ月
3	26	介護計画に関する日常的なチェックにつながるような記録が希薄である。介護計画に全スタッフが係われる取り組みが必要である。	・徹底した水分補給のチェック等細部にわたった記録表の作成。 ・短期間でのモニタリングのためのミーティングの充実。	・ユニットリーダーと看護師で話し合い、どのようなチェック表が必要かを決めていく。 ・職員個々との話し合いを短期間でもこまめにしていく。	6ヶ月
4	35	地域と一緒に避難訓練を実施する機会がほとんど設けられていない。今後様々な災害に備えて地域との連携が重要である。	・さくら一番館での避難訓練時の地域の参加の呼びかけ。 ・地域の避難訓練へ職員の参加。	・避難訓練のための委員会作りを行い、年間計画を立てて、地域との協力体制を構築していく。	6～12ヶ月
5	45	車イス使用の利用者が増えて、浴槽に入れる利用者が減ってきている。浴槽に入って頂くための対策をどのようにしていくか。	・複数の職員で介助する。 ・1F小規模にある機械浴の使用。	・利用者の状況に応じて可能なかぎり二人以上での入浴介助にあたる。 ・機械浴のメンテナンスも含め、利用できる方は限られてくるが活用していく。	6ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。